

## 「桜を見る会」問題の真相解明と責任追及に蓋をする菅政権への抗議声明

1 本年9月16日、およそ8年という憲政史上最長の期間にわたって政権の座にあった安倍晋三氏に代わり、安倍政権時に官房長官であった菅義偉氏が新しい首相に選出された。安倍政権は、国の行事である「桜を見る会」に、安倍首相の地元後援会員や反社会的勢力とみられる人物などを多数招いて国政を私物化し、国会で招待者名簿を明らかにするよう追及されるや、それらはすでに破棄し、復元する考えもないなどと述べてきた。さらに、安倍元首相の後援会が主催した「前夜祭」については、政治資金規正法や公選法違反（寄附）の行為が行われていた疑惑により、安倍元首相と事務所関係者らが刑事告発されている。

これら「桜を見る会」をめぐる問題は、今も多くの国民から疑念を持たれ、真相解明と責任追及が求められている国政上の大問題である。安倍政権当時、官房長官としてナンバー2の地位にあった菅首相は、自らの責任として、問題の真相解明と責任追及の声に対して真摯に向き合い、国会内外で説明する責任が当然あるはずである。

2 ところが、菅首相は、就任早々の記者会見で「桜を見る会」について見解を聞かれると、安倍長期政権で招待客数が多くなり批判があるなどとしたうえで、突如「来年以降は中止する」と発表した。これを受けて、菅首相に代わって新官房長官となった加藤勝信官房長官は、「桜を見る会」が今後中止される以上、安倍政権当時は行うとしていた「桜を見る会」の見直し作業は「必要なくなった」として、今後行わない方針を明らかにした。このような菅政権の対応は、今も多くの国民から疑念を持たれ、政権批判の要因となっているこの問題から国民の目をそらせ、国政の重大問題を闇に葬るようなものである。このような政権の姿勢は、政権発足直後の高支持率を背景としてこの問題を「リセット」しようとするものであり、国民を愚弄することにほかならない。

さらに、本日9月18日には、「桜を見る会」への招待を集客に利用していたと

されるジャパンライフの元会長らが、詐欺容疑で逮捕された。すでにジャパンライフの元会長らは「首相杯」で招待されたのではないかと報じられているが、そうであれば、安倍元首相のみならず、当時官房長官であった菅首相も、数千億円もの被害を生んだとされる巨額詐欺事件の広告塔として、国の行事である「桜を見る会」が利用されたことへの責任は逃れ難い。

3 私たちは、「桜を見る会」をめぐる問題が、ときの政権による国政の私物化と民主主義破壊をもたらしてきたことに大きな危機感を抱き、安倍政権に対して真相解明と責任追及を求めてきた。そして、これまで安倍政権の中核を担い、安倍政権を継承すると明言してきた菅首相のこの問題への対応にも注目してきた。

しかるに、この度の菅首相ら政権幹部の対応は、安倍政権時と同様、国政の私物化に対する反省もなければ、真相解明や責任追及を行うというところからは、ほど遠いということが誰の目にも明らかとなった。

私たちは、菅政権が「桜を見る会」をめぐる問題の数々に蓋をして、闇に葬り去ろうとしていることを絶対に許さず、政権による国政私物化と民主主義破壊を阻止するため、これからも「桜を見る会」をめぐる問題の真相解明と責任追及を求めて、運動を強めてゆく所存である。

以上

2020年9月18日

「桜を見る会」を追及する法律家の会